

第1章 土木工事設計図書等作成要領

1-1	総則	P 1-1
1-2	用語の定義	P 1-1
1-3	作成要領	P 1-5
1-4	工事工種体系の階層の定義及び階層例	P 1-9
1-5	本工事費内訳記載要領	P 1-12
1-6	設計書様式	P 1-15
1-7	積算例	P 1-23

第1章 土木工事設計図書等作成要領

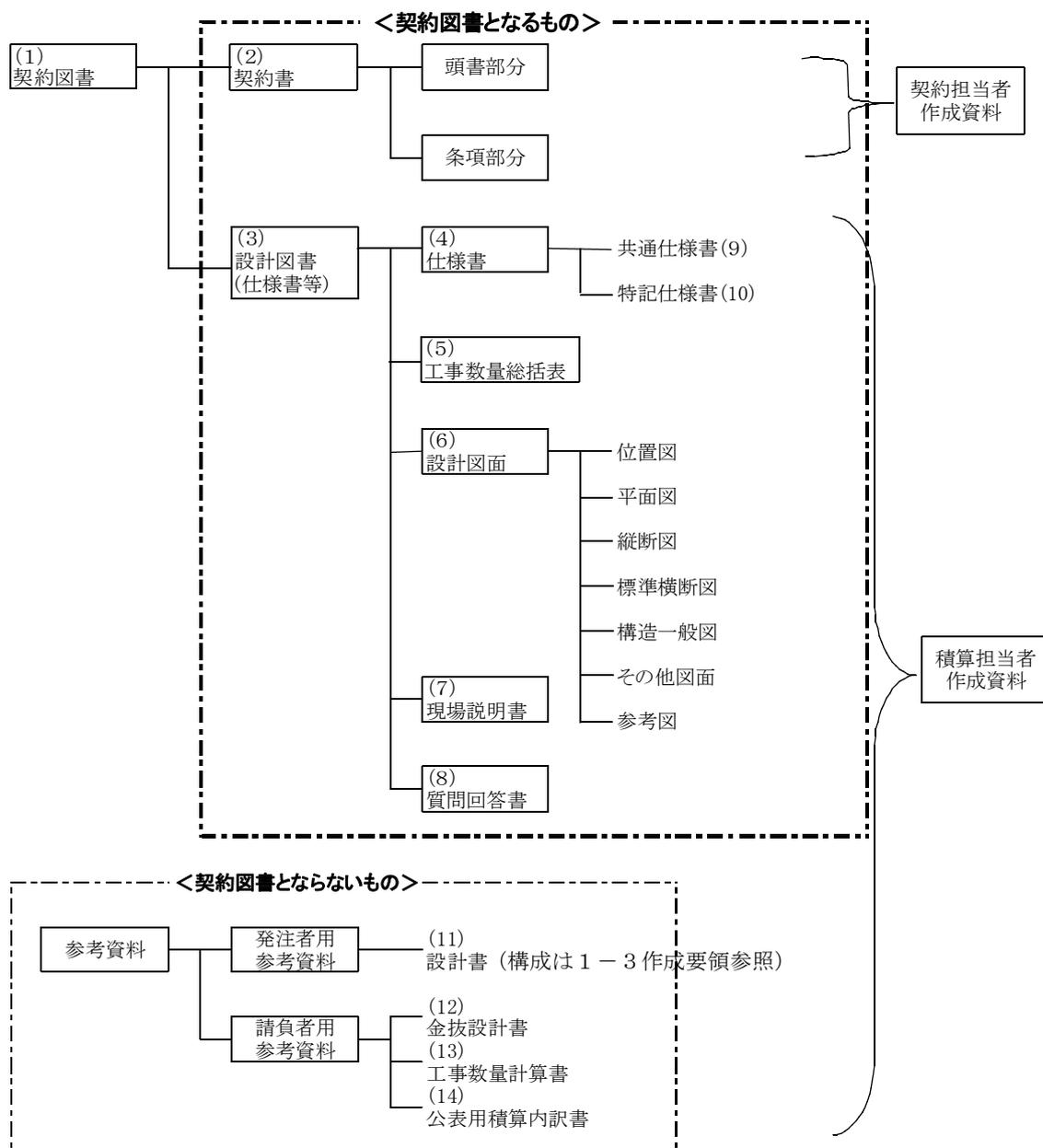
1-1 総則

本要領は、宮城県土木部が発注する土木工事に係る設計図書等の資料作成にあたって統一的に運用すべき事項を定めたものである。

なお、細別上の構成及び用語については「工事工種体系ツリー」、「新土木工事積算大系用語定義集」（国土交通省国土技術政策総合研究所）による。

1-2 用語の定義

1. 契約図書等の構成



2. 用語の定義

(1) 契約図書

契約における権利義務や工事目的物の規格・仕様、技術的要求事項等を規定しているもの。

発注者、請負者双方の合意により、締結された契約の内容を示した書類で、双方を拘束する契約上の効力を有するものである。契約書（発注者と請負者の権利義務を規定するもの）と、設計図書（工事目的物を完成させるための技術的事項等を規定するもの）を合わせて契約図書という。

契約図書は、発注者と請負者双方における工事目的物を完成させるための取り決めに記したものであり、これに属さない図書は契約上効力を有しない。

【解説等】

契約図書は、契約の請負代金額等の主要事項及び発注者と請負人の権利義務を定めた契約書と工事目的物の規格・仕様を定めた設計図書からなり、現場条件の変更等が生じ設計変更が必要となった場合は、これらに基づき設計変更を行う。よって円滑な設計変更を行うため、設計図書においては工事目的物の規格・仕様のほか、発注者が予定価格算出用設計書の作成時に想定した現場条件を明示しなければならない。

(2) 契約書

契約図書の一部となるもの

発注者と請負者との間の権利義務関係を明確にしたもので、工事名、工事場所、工期、請負代金額などの主要な契約事項が記載された書面の部分（いわゆる頭書と呼ばれる部分）と、請負代金の変更、契約の解除等の発注者と請負者の権利義務などの内容を定めている条項部分を併せたものをいう。

(3) 設計図書（仕様書等）

契約図書の一部となるもの

工事数量総括表、仕様書（共通仕様書、特記仕様書）、設計図面、現場説明書、質問回答書をいう。

【解説等】

設計図書は、発注者の予定価格の根拠となるほか、入札参加者はこれを基に入札額を算定する。契約締結後請負者は、この設計図書を照査し、これに基づいて工事目的物を完成させ発注者に引き渡す。

(4) 仕様書

設計図書の一部となるもの

工事の施工に際して要求される技術的要件、いわゆる使用する材料の品質や規格、寸法・位置・仕上げの許容誤差など工事目的物の内容を規定するもののほか、施工上必要な工程や手順、採用が義務付けられている施工方法及び工事施工上の制約条件などを示すものであり、これらを詳細に記載した書面をいう。仕様書には、各工事に共通する共通仕様書と、各工事ごとの現場条件によって規定される特記仕様書があり、これらを総称して仕様書という。

【解説等】

契約書で定めた権利義務に基づき工事を施工させるため、品質・規格・仕様・施工条件等を仕様書において定めなければならない。

(5) 工事数量総括表

設計図書の一部となるもの

契約条件の明確化を図るため、工事内容を構成する種別や細目などの項目と、項目ごとの規格・数量を、請負者が契約上制約されるもの（契約事項）とされないもの（非契約事項）に区分し、一覧的に記載した書面をいう。

【解説等】

現場条件等の変更が生じた場合、非契約事項であっても、適正な変更設計額算定の基礎となることから、設計変更の対象とする。契約上制約される事項・数量は、品質・出来形を確認する必要がある。摘要欄に積算上の現場条件を明示することにより、特記仕様書による明示を簡素化することができる。

(6) 設計図面

設計図書の一部となるもの

工事の範囲や工事目的物の量的なものを視覚的に表したもので、工事目的物の内容等を一定のルールに基づいて表現した図や表で、位置図、設計図、参考図等をいう。

※参考図

現場条件から想定される一般的な仮設備や工事目的物を施工する際に使用する標準的な材料の仕様などを示した図面をいう。

【解説等】

設計図面は工事の全体を表示し、これによって施工されるものであることから、作成に当たっては、誤りや脱漏、不明確な表現がないよう細心の注意を払い、誰でも分かる表示とするとともに、必要な現場条件を明示することで、特記仕様書による明示を簡素化することができる。

※参考図

参考図は契約においてその施工を制約するものではないため、請負者が任意に決定した工法や材料等を設計変更する必要はない。しかしながら、示されている現場条件の変更等が生じた場合には、設計変更する必要がある。よって請負者が採用した工法や材料等が参考図で示したものと異なる場合は、現場条件の変更等によるものか、請負者の任意判断によるものかを適切に判断する必要がある。

(7) 現場説明書

設計図書の一部となるもの

工事の入札前に入札参加者に対して、工事実施に関する説明事項等を示した書面をいう。

【解説等】

現在では、競争入札において談合防止等の観点から現場説明は原則として実施しない。

(8) 質問回答書

設計図書の一部となるもの

公告期間中において、設計図書の不明確な部分についての入札参加者からの質問に対し、発注者が回答する書面をいう。

【解説等】

回答については、契約締結時の条件となることから他の入札参加者に対しても、閲覧による公表等を行わなければならない。

(9) 共通仕様書

設計図書の一部となるもの

各作業の手順，使用する材料の品質，数量，仕上げの程度等のほか，場合によっては施工方法等，工事を施工する上で必要な技術的要求，工事内容を説明したもののうち，あらかじめ各工事に共通する内容を盛り込み作成した書面をいう。

【解説等】

請負者は工事を施工するにあたり，契約図書に（施工方法や材料規格等）特別の定め（特記事項）がない場合は共通仕様書に記載されている内容を遵守し，施工方法や使用する材料を自らの責任において定めることとなる。

(10) 特記仕様書

設計図書の一部となり共通仕様書より優先されるもの

共通仕様書で定められていないものや定められている事項と異なる場合等において，共通仕様書を補完するために工事固有の技術的要求事項及び工事施工上の制約事項を定める書面をいう。

【解説等】

発注者は委託調査結果等から現場条件を勘案し，予定価格の根拠を算出している。その際に想定した現場条件は，限られた調査資料から抽出するものであり，工事施工時に確認される詳細の現場条件と一致しないことも予想されるため，発注者が想定した現場条件も特記仕様書で明示する必要がある。

(11) 設計書

参考資料の一部となるもの（工事価格算定の資料となるもの）

工事数量総括表を作成する際の基礎資料であり，「土木工事積算基準」や「土木工事工種体系化の手引き」等の諸基準に基づいて工事価格の根拠を算出した書面をいう。設計変更が生じた場合にも，請負代金額変更にあたり，請負者と協議する根拠となるものである。

【解説等】

工事価格の根拠を算出した資料であり，妥当な工事費用を決定するための重要な資料である。会計検査等においては，この書類で受検し工事費用の妥当性を説明することとなるため，単価算定資料等の積算根拠も適切に添付する必要がある。積算根拠はその量によっては別冊としてもよい。

(12) 金抜設計書

参考資料の一部となるもの

適正な見積りを行わせるために入札参加者へ閲覧させるもので，設計書の単価欄と金額欄及び特定の項目（員数，時間等）を空白にした書面をいう。

【解説等】

原則として設計図書に添付しないが，見積期間を短縮する場合（災害復旧工事等）において，特に必要な場合にのみ，参考資料として添付することができる。入札額を算定する際に参考とする資料であり，契約上の制約を有しないことから契約図書の扱いとしない。設計図書に添付する場合は，必ず参考資料であることを明記すること。

(13) 工事数量計算書

参考資料の一部となるもの

工事を施工する上で必要となる項目ごとの数量を設計図・参考図を基に算出し、取りまとめた書面をいう。

【解説等】

設計図面を数値化したものであるとともに工事数量総括表の基礎資料となるものであり、工事目的物・仮設構造物等の妥当性を検証する上で必要不可欠なものであるが、契約上の制約を有しないことから、契約図書の扱いとしない。設計図書に添付する場合は、必ず参考資料であることを明記すること。

(14) 公表用積算内訳書

参考資料の一部となるもの

予定価格の透明性の一層の向上を図るために入札後に公表するもので、工事区分、工種及び種別ごとの数量、金額などを記載した書面をいう。

1-3 作成要領

工事を発注するにあたっては、下表に示す資料を作成するものとする。

作成資料名	設計書	設計図書 (仕様書等)	参考資料
(a) 設計書表紙 (甲)	○	○	
(b) 設計書表紙 (乙)	○		
(c) 事業費総括表	○ ※1		
(d) 現場説明書, 現場説明書説明事項	○	○	
(e) 特記仕様書 (施工条件明示書, 特記事項)	○	○	
(f) 工事数量総括表		○	
(g) 設計内訳書 (付帯工事, 補償工事費を含む)	○		
(h) 一式内訳書	○	○ ※2	
(i) 単価表	○		
(j) 間接費内訳書	○		
(k) 設計図面 (位置図、平面図、縦断図、標準横断図、横断図、一般図、構造図、参考図等)	○	○	
(l) 参考資料表紙			○
(m) 数量計算書 (数量集計表、詳細数量計算書)	○		○
(n) 金抜設計書			○ ※3
(o) 積算根拠資料 (単価決定根拠, 数量決定根拠等)	○		

※1 全体事業費、当該工区、発注済工区等の工事費目の内訳を記載したもので、必要に応じて添付する。

※2 特に必要がある場合のみ添付する。

※3 原則として添付しない。(1-2 2.(12)金抜設計書参照)

(a) 設計書表紙（甲）

設計書表紙（甲）には、①事業年度、②工事番号、③工事名、④路線名、河川名又は港湾名、⑤施工地名、⑥工期、⑦工事概要を記載する。

なお設計図書（仕様書等）の場合は、様式中の「設計書」を「仕様書」に書き換える。

変更設計書（設計図書（仕様書等））を作成する場合は、変更が生じた内容について当初（変更前）を上段、変更後を下段に対比する。

(b) 設計書表紙（乙）

設計書表紙（乙）には、①工事費、②起工理由もしくは変更理由、③施工方法その他を記載する。また設計図書（仕様書等）には①工事費、②起工理由もしくは変更理由は記載しない。

変更設計書を作成する場合は、変更が生じた内容について当初（変更前）を上段、変更後を下段に対比する。

(c) 事業費総括表

必要に応じて作成する。全体事業費、当該工区、発注済工区等の工事費目の内訳を記載する。

(d) 現場説明書、現場説明書説明事項

工事番号、工事名、工期、現場説明日時、閲覧期間、閲覧場所、現場説明に対する質問書提出期限及び回答日等を所定の様式に記載し、現場説明書説明事項については、現場説明書の次頁から所定の内容が記載された様式を添付し作成する。

(e) 特記仕様書

特記仕様書は、当該工事のみに適用される事項を示すものであり宮城県土木部制定「共通仕様書Ⅰ」及び「共通仕様書Ⅱ」に優先する。特記仕様書には、現場条件等及び現場条件等を考慮し施工上必要となる条件を明示する。

(f) 工事数量総括表

工事数量総括表には、工事工種体系の工事区分（レベル1）から規格（レベル5）までの項目を記載する。なお、各体系階層毎の記載方法はつぎのとおりとする。

- 1) 工事区分（レベル1）の数量及び単位は一式と記載する。
- 2) 工種（レベル2）の数量及び単位は一式と記載する。
- 3) 種別（レベル3）の数量及び単位は一式と記載することを原則とする。

ただし、盛土工については、種別（レベル3）で総量を記載する。

- 4) 細別（レベル4）の数量は、工事費内訳表と同じ数量を記載することを原則とする。

なお、単位は工事工種体系の工事数量総括表用単位を使用する。ただし、作業土工の床掘・埋戻については、作業内容・数量が検収を伴わない任意として取り扱われるため、一式として記載する。また盛土工については、その内訳区分（流用土、採取土、購入土）が任意数量として取り扱われるため、それぞれを一式として記載する。

- 5) 規格（レベル5）は、工事費内訳表と同じ規格項目を記載する。

【記載例】

工事数量総括表（本01）

工事番号：道路改良積算例

工事名	道路改良02009-001号				
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	
道路改良 レベル1		式		1	床掘り、埋戻しは検収対象 とならないので契約数量と はせず、1式で表示する。
石・ブロック積(張)工 レベル2		式		1	
作業土工 レベル3		式		1	
床掘り レベル4		式		1	
埋戻し レベル4		式		1	
コンクリートブロック工 レベル3		式		1	
コンクリートブロック基礎 レベル4	底幅:0.52c m, 高さ:0.3c m レベル5	式		1	
コンクリートブロック積	ブロック規格:JIS	m		211	

積算用単位

(g) 設計内訳書, (h) 一式内訳書

設計内訳書には、工事工種体系の工事区分（レベル1）から積算要素（レベル6）までの項目全てを記載する。なお、各体系階層毎の記載方法は以下のとおりとする。

- 1) 工事区分（レベル1）の数量及び単位は一式と記載する。
- 2) 工種（レベル2）の数量及び単位は一式と記載する。
- 3) 種別（レベル3）の数量及び単位は一式と記載する。
- 4) 細別（レベル4）の数量は、「土木工事標準積算基準書」に掲載されている数値基準の表に定められている数値に四捨五入する。なお、単位は工事工種体系の積算用単位を使用する。
- 5) 規格（レベル5）は、工事工種体系で定める規格項目を記載する。
- 6) 積算要素（レベル6）の数量は、細別（レベル4）の数値の1位下位まで記載し、四捨五入して求める。なお、単位は一式で記載せず、工事工種体系の積算単位等をもとに記載する。

【記載例】

設計内訳書（本01）

工事番号：道路改良積算例

工事名	道路改良02009-001号				事業区分 工事区分	道路新設・改築 道路改良	摘要
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額		
道路改良 レベル1		式	1		12,834,398		
石・ブロック積(張)工 レベル2		式	1		12,834,398		
作業土工 レベル3		式	1		104,360		
床掘り レベル4		m ²	100	664	66,400		
埋戻し レベル4		m ³	20	1,898	37,960		
コンクリートブロック工 レベル3		式	1		12,730,038		
コンクリートブロック基礎 レベル4	底幅:0.52c m, 高さ:0.3c m レベル5	m	211	7,268	1,533,548		
コンクリートブロック積	ブロック規格:JIS	m ²	463	18,950	8,773,850		

積算用単位

(i) 単価表

設計内訳書の設計単価の内訳を記載する。

(j) 間接費内訳書

工事の間接費（共通仮設費，現場管理費，一般管理費等）の内訳を記載する。

(k) 設計図面

位置図，平面図，縦断図，標準横断図，横断図，一般図，構造図等を添付する。

(l) 参考資料表紙

参考資料（数量計算書，金抜設計書）の表紙として作成するもので，施工年度，工事番号，工事名等を記載する。また，注釈として「本資料は，工事請負契約を拘束するものではない」と記載する。

(m) 数量計算書

数量計算書は，設計書に記載出来るよう集計した数量集計表と，その内訳として積算に必要な数量を各工事目的物の積算要素毎に算出した詳細数量計算書（数量内訳書）から成る。参考資料として設計図面に添付する場合は，原則として数量集計表のみを添付すること。

(n) 金抜設計書

設計書の単価欄と金額欄を空白にしたものを作成する。

(o) 積算根拠資料

積算に使用した単価，歩掛の根拠資料及び作業能力の計算資料等を適宜取り纏め作成する。

単価：物価資料，特別調査資料，見積り資料等

歩掛：土木工事標準積算基準書（宮城県土木部制定）の適用方針，協会歩掛資料，見積り資料等

1-4 工事工種体系の階層の定義及び階層例

1. 工事工種体系の定義

表1-1 体系階層（レベル）の定義

レベル	名称	内 容	補 足 説 明	備 考
レベル0	事業区分	予算制度上および事業執行上の区分を中心とした区分	工事数量総括表には表示されない。発注時の支出予算科目を示す	河川改修 道路新設・改築
レベル1	工事区分	工事発注ロットおよび受注者を考慮してレベル0を分割したもの	通常、1件の工事として発注される区分	築堤・護岸 道路改良
レベル2	工 種	レベル1を構成する要素のうちで、一定の構造を持つ部位を施工するための一連作業の総称	複数の工事区分で共通に行われる工種については、主体となる工事区分で体系化している	法面工 地盤改良工 橋台上
レベル3	種 別	体系全体の見通しをよくするため、レベル2とレベル4をつなぐレベル区分	工種によっては、表示しない場合もある。また、可能な限り、施工順序に従った構成とする	作業土工 場所打杭工
レベル4	細 別	工事を構成する基本的な単位目的物もしくは単位架設物であって、単位とともに契約数量を表示するレベル	検収対象となる単位目的物と検収対象とならない単位仮設物がある。積算・見積り時にはこのレベル項目が価格算出の基本となる	コンクリート 鉄筋
レベル5	規 格	レベル4を構成する材料等の客観的な材質・規格ならびに契約上明示する条件等	レベル4に付随して表示するレベルで、総括表では原則としてレベル4と同様に記述されるレベル	24-8-25-N (コンクリートの規格)
レベル6	積算要素	レベル4の価格算定上の構成要素であって、基本的には契約上明示しないもの	費用構成としての積算項目と、積算上の最小構成単位としての歩掛項目から構成されている	【積算項目】 自工区外への運搬費 【歩掛項目】 ダンプトラック運搬

2. 工事工種体系の階層例（道路改良一部抜粋）

【表1-10 事業区分：道路新設・改築】道路改良-1

レベル1 工事区分	レベル2 工 種	レベル3 種 別	レベル4 細 別	レベル5 規 格	積算用 単位	工事数量総 括表用単位	備 考	
道路改良	工場製作工	造管支柱製作工	製作加工	【材質、規格】	t	t		
			工場製品輸送工	輸送工	輸送 小運搬	[-] [-]	t 式 or t	
			道路土工	掘削工	土砂掘削	[-]	m ³	m ³
	軟岩掘削	[-]			m ³	m ³		
	硬岩掘削	[-]			m ³	m ³		
	路体盛土工	流用土路体		[-]	m ³	式 or m ³	任意の場合は、 レベル3の全体数 量をm ³ 単位で表 示する	
		発生土路体		[-]	m ³	式 or m ³		
		採取土路体		[-]	m ³	式 or m ³		
	路床盛土工	流用土路床		[-]	m ³	式 or m ³	任意の場合は、 レベル3の全体数 量をm ³ 単位で表 示する	
		発生土路床		[-]	m ³	式 or m ³		
		採取土路床		[-]	m ³	式 or m ³		
	法面整形工	法面整形(掘削部)		法面整形(掘削部)	【土質】	m ²	m ²	
			法面整形(盛土部)	[-]	m ²	m ²		
	造管盛土工	作業残土処理工	(作業残土処理)	[-]	m ³	式 or m ³		
			路床安定処理工	安定処理	【追加材料】	m ²	m ²	
置換工				置換	【置換材料】	m ²	m ²	
ワトワット工			安定ワット	ワトワット	【敷厚】	m ²	m ²	
				安定ワット	【材質、規格】	m ²	m ²	
H ⁺ 材料トーン工	H ⁺ 材料トーン	ワトトーン	【粒径、長さ(打設長)】	m ³	m ³			
		袋詰式ワトトーン	【粒径、長さ(打設長)】	m ³	m ³			
締固め改良工	ワトコンクリート	ワトコンクリート	【任、長さ(打設長)】	m ³	m ³			

I/A-1 工事区分	I/A-2 構造物名	I/A-3 箇所名 工法名等	I/A-3 種別	I/A-4 箇所名 工法名等	I/A-4 種別	I/A-5 規格	積算用 単位	工事数量 総括表用単位	換 算							
I/A-1	I/A-2	I/A-3	I/A-3	I/A-4	I/A-4	I/A-5	積算用 単位	工事数量 総括表用単位	換 算							
										固結工	粉体噴射攪拌 高圧噴射攪拌 石灰吹付 薬液注入	【改良材料、径、長さ(打設長)、長さ(掘削)】 【注入材料、長さ(注入長)、長さ(土留長)】 【改良材料、径、長さ(打設長)】 【径、長さ】 【改良範囲、材料規格】	本 本 本 本	本 本 本 本		
										法面工	植生工	種子吹付 客土吹付 厚層基材吹付 植生シート 種子布 腐葉 腐葉 市松芝 人工芝 植生穴	【肥料・養生材の有無】 【吹付厚】 【吹付厚】 【植生シート規格、肥料袋の有無】 【規格】 【芝規格、肥料有無】 【芝規格、肥料有無】 【芝規格、肥料有無】 【人工芝芝規格】 【植生穴】	m ² m ² m ² m ² m ² m ² m ² m ² m ² m ²	m ² m ² m ² m ² m ² m ² m ² m ² m ² m ²	
										法面吹付工	吹付吹付 吹付吹付	【吹付種類、吹付厚】 【吹付種類、吹付厚】	m ² m ²	m ² m ²		
										法持工	現場打込持 現場吹付持 現場吹付持	【吹付種類、中込材種類】 【法持規格、中込材種類】 【材質、持厚、吹付厚】	m ² m ² m ²	m ² m ² m ²		
										アソ工	アソ アソ足場 鉄筋挿入 足場	【鋼材規格、板計荷重、剛孔長】 【 - 】 【鉄筋規格、剛孔長】 【 - 】	本 空m ² 本 本 本 本	本 空m ² 本 本 本 本		
										PC法持工	アソ吹付吹付 アソ アソ足場	【 - 】 【鋼材規格、設計荷重、剛孔長】 【 - 】	枚 本 空m ²	枚 本 空m ²		
										かご工	ジャかご ふとんかご	【径、止杭規格】 【高さ、幅、止杭規格】	m m	m m		
										舗装工	作業土工	(床張り) (増良し)	【 - 】 【 - 】	m ² m ²	式 or m ² 式 or m ²	I/A-4は表示せず、I/A-3の単位は式表示
										取壊杭工	取壊杭 取壊杭 取壊杭	【種別、径、長さ】 【径】 【種別、取壊距離、取壊費の有無】 【径、長さ】	本 本 本 本	本 本 本 本		

【全工種共通】 共通仮設-1

I/A-1 工事区分	I/A-2 構造物名	I/A-3 箇所名 工法名等	I/A-3 種別	I/A-4 箇所名 工法名等	I/A-4 種別	I/A-5 規格	積算用 単位	工事数量 総括表用単位	換 算									
I/A-1	I/A-2	I/A-3	I/A-3	I/A-4	I/A-4	I/A-5	積算用 単位	工事数量 総括表用単位	換 算									
										共通仮設	共通仮設費	運搬費	建設機械運搬費 建設機械分解組立費 建設機械分解組立輸送費 仮設材運搬費 自走機械運搬費 移動作業機械分解組立費 仮設船回航費 作業船等回航費 作業船等えい航費	【 - 】 【 - 】	台 式 or 台	台 式 or 台		
												準備費	本根等処分費 繋船費(河川) 繋船費(海岸) 運送 交通船	【 - 】 【 - 】 【 - 】 【 - 】 【 - 】	式 or 式 式 or 式 式 or 式 式 or 式 式 or 式	式 or 式 式 or 式 式 or 式 式 or 式 式 or 式		
												事業損失 防止施設費	家屋調査費 騒音調査費 振動調査費 沈下観測費 傾斜観測費 水質調査費 地下水観測費 事業損失防止施設費	【 - 】 【 - 】	式 or 式 式 or 式	式 or 式 式 or 式		
												安全費	交通監視員 機械監視員 安全管理員 高圧線防護施設費	【 - 】 【 - 】 【 - 】 【 - 】	人 人 人 人	式 or 式 式 or 式 式 or 式 式 or 式	人 人 人 人	
												役務費	借地料 電力基本料金 電力設備工事負担金 用水基本料金	【 - 】 【 - 】 【 - 】 【 - 】	式 or 式 式 or 式 式 or 式 式 or 式	式 or 式 式 or 式 式 or 式 式 or 式		
												技術管理費	土質試験費 地質試験費 軟弱地盤調査費 自主的施工による費用 計測費 品質証明費 施工調査費	【 - 】 【 - 】 【 - 】 【 - 】 【 - 】 【 - 】 【 - 】	式 or 式 式 or 式 式 or 式 式 or 式 式 or 式 式 or 式 式 or 式	式 or 式 式 or 式 式 or 式 式 or 式 式 or 式 式 or 式 式 or 式		
												管理費	監督員詰所 火災保険	【 - 】 【 - 】	式 or 式 式 or 式	式 or 式 式 or 式		

3. 用語定義集の見方

(1) 構成

用語定義集の本編の構成は、基本的には、下図に示すように、細別ごとに、以下のような構成になっている。

- ・ 細別名称
- ・ 単位（総括表用単位、ならびに、積算用単位）
- ・ 用語の定義（費用項目を含む）、備考
- ・ 図（必要に応じ）
- ・ 当該“細別”を含む上位レベル（レベル1～4）

細別の名称

<div style="background-color: #cccccc; padding: 5px; border: 1px solid black;"> プレキャストU型側溝 </div>	総括表用単位 m 積算用単位 m
--	----------------------------

【用語の定義】

プレキャストのU型側溝の設置作業で、以下の費用を含む。

- ・ 床盛り
- ・ 基礎材設置費
- ・ 均しコンクリート
- ・ 敷モルタル費
- ・ プレキャストU型側溝設置費
- ・ 埋戻し

“ゴシック・斜体”
の費用項目は、同名
称の細別を参照。

【備考】

プレキャストU型側溝には、鉄筋コンクリートベンチフリュームも含む。

工事区分(レベル1)	工 程(レベル2)	種 別(レベル3)	種 別(レベル4)
築堤・護岸	付帯道路工	側溝工	プレキャストU型側溝
橋門・橋管	水路工	側溝工	プレキャストU型側溝
河川修繕	管理用道路修繕工	排水構造物修繕工	プレキャストU型側溝
堤防・護岸	水路工	側溝工	プレキャストU型側溝
堤防・護岸	付帯道路工	側溝工	プレキャストU型側溝
砂防ダム	付帯道路工	側溝工	プレキャストU型側溝
舗装	路面排水工	側溝工	プレキャストU型側溝
道路修繕	道路構造物修繕工	排水構造物修繕工	プレキャストU型側溝

当該細別を含む上位レベルの一覧。

※ 本編において、細別名称の上欄に【】書きで記載されているのは、担当地籍とモジュール番号である。

1-5 本工事費内訳記載要領

レベル1 工事区分	レベル2 工 種	レベル3 種 別	レベル4 細 別	レベル5 規 格	積算 単位	内訳 単位
築堤・護岸	法覆護岸工	コンクリートブロック工	コンクリートブロック張	【ブロック規格】	m ²	m ²
			天端コンクリート	【タイプ,各種】	m	m

(新土木工事積算体系の解説－工事工種体系階層参照)

- ・設計内訳書には、工事区分（レベル1）～規格（レベル5）まで記載する。
- ・各レベルにおいて、補助表現を用いて同じ機能を持つ複数の工事目的物を区分できる。
- ・単価表は契約上明示しない積算要素で構成するものとし、契約上必要な規格（レベル5）は設計内訳書に記載する。
- ・設計内訳書には、単価表で算出した単価を計上して（単価表で計上することが困難な指定構造物は、一式内訳書で計上できる）工事費を算出し、この場合の単価表を1次単価表と呼び1次単価表に計上するために作成された単価表を2次単価表と呼ぶ。（以下、同様に3次～数次単価表と表現する）

設計内訳書

工事区分 (レベル1)	工 種 (レベル2)	種 別 (レベル3)	細 別 (レベル4)	規 格 (レベル5)	単位	数量	単価	金額	備 考
築堤・護岸									
	法覆護岸工								
		コンクリートブロック工							
			コンクリートブロック張り (A部)	【ブロック規格】 40*25*35	m ²				第 号明細書
			天端コンクリート	【タイプ,各種】 TYPE1,18-8-40	m				第 号明細書

第 号 1次単価表									
コンクリートブロック張り (A部) 【ブロック規格】 40*25*35					1 m ² 当たり				
名 称					単位	数量	単価	金額	備考
ブロック張り 【積算要素】 間知ブロック					m ²	1			2次単価
計									
1 m ² 当たり									

第 号 1次単価表									
天端コンクリート 【タイプ,各種】 TYPE1, 18-8-40					1 m 当たり				
名 称					単位	数量	単価	金額	備考
コンクリート 【規格,積算要素】 18-8-40,人力打設,小型構造物					m ³	0.07			2次単価
型枠 【積算要素】 小型 I					m ²	0.14			2次単価
計									
1 m 当たり									

- ・土工においては掘削・盛土別に総量を明示する。（バックホ掘削・人力掘削等別に数量を明示しない）但し、土質別

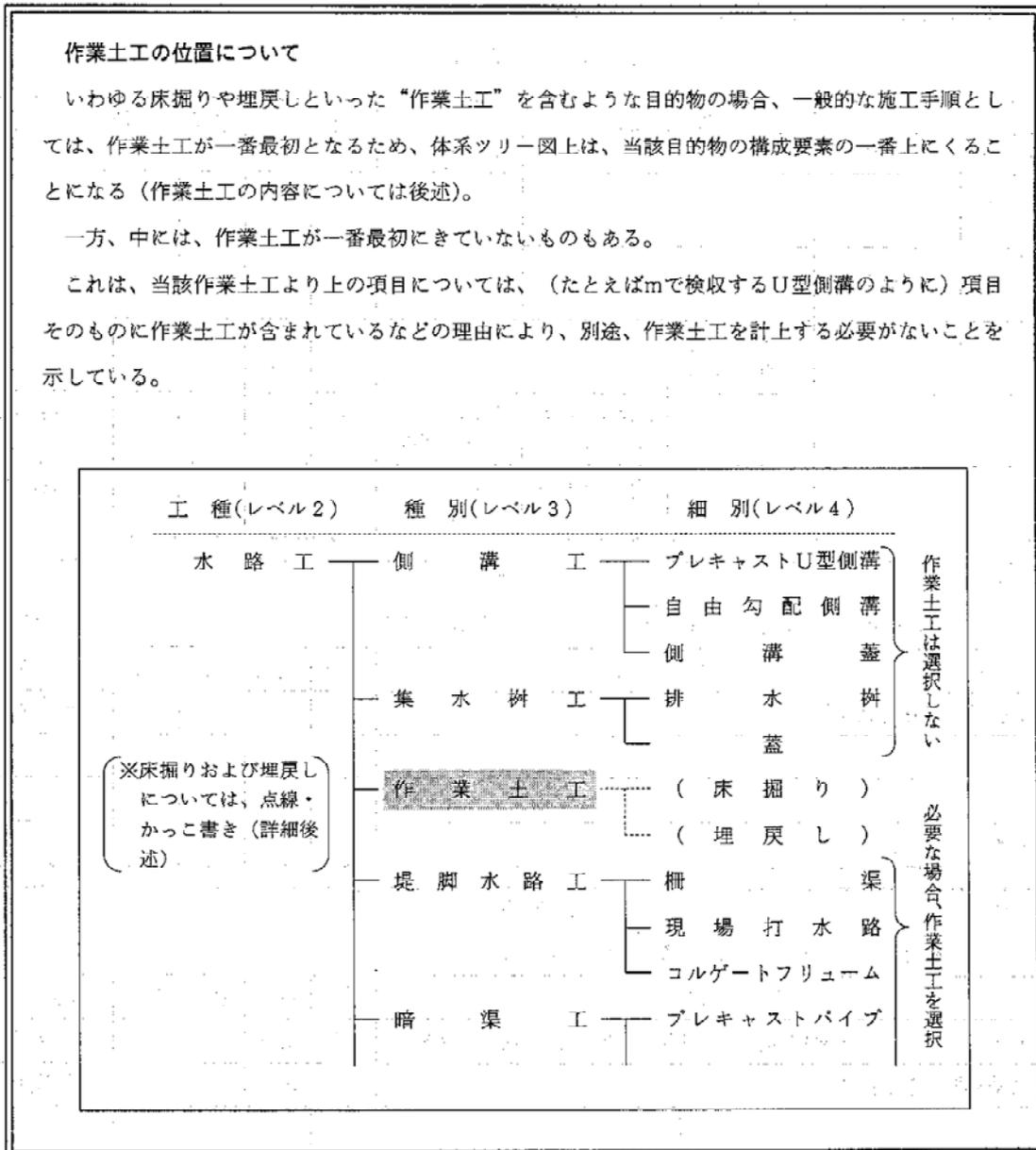
や他工区間との流用等の内訳は特記仕様書で概数明示し、検収しなくても数量算出根拠により設計変更対象である旨明記する。

・作業土工について

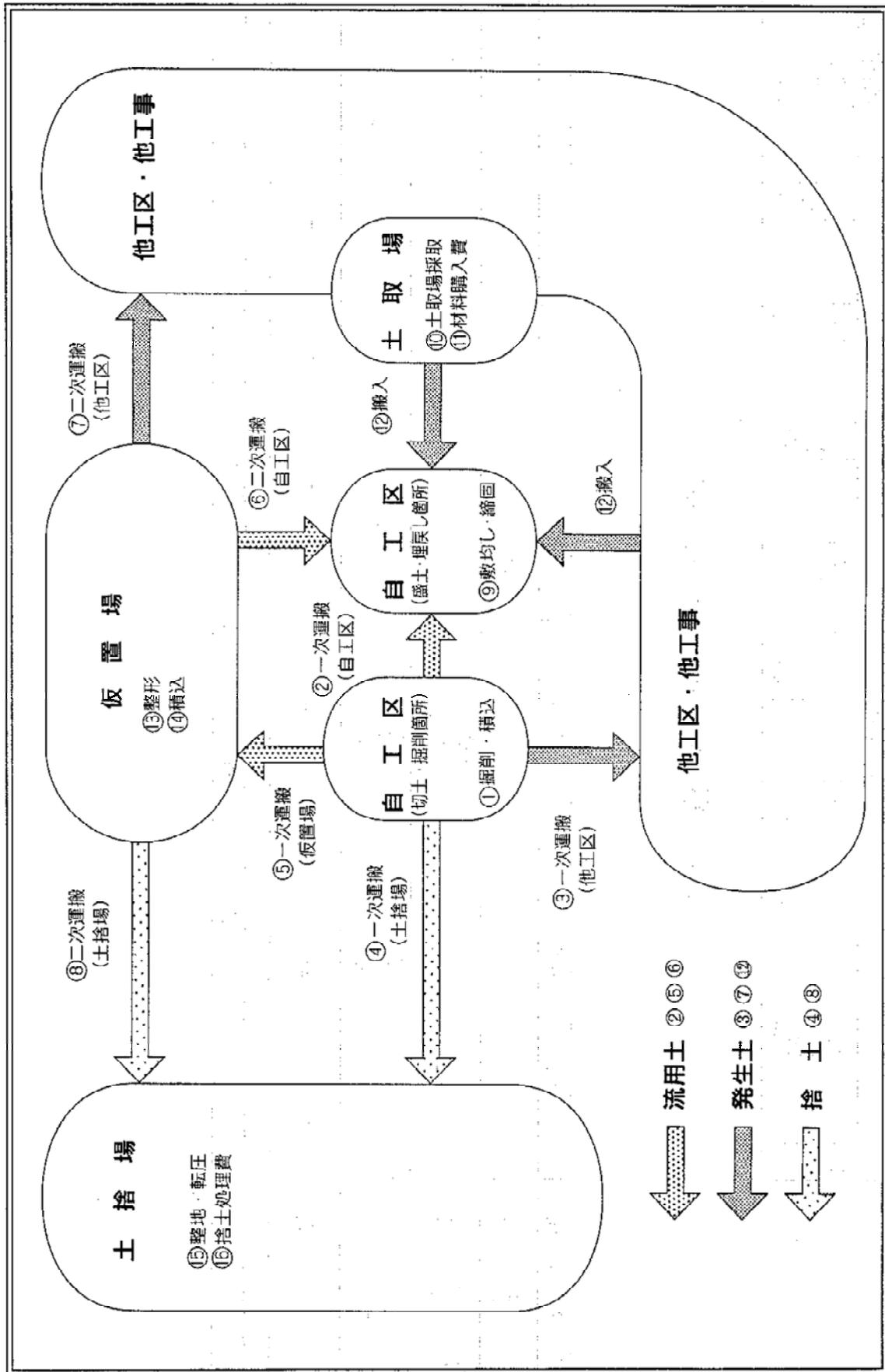
工種体系においては、”検収対象とならない土工（任意、主に床掘りと埋戻しによる）”と”検収対象となる土工（出来形を伴う、指定）”とを明確に区分し、前者について作業土工という名称で示す。

作業土工により発生する残土については、自工区から搬出するにあたって、他工区や土捨場などの受け入れ先が規定される場合が多い。このため、作業土工により発生した残土の「搬出」と「処分」に関する作業については、作業土工とは別に「作業残土処理工」を設ける。

(参考) 体系ツリー図における表示上の工夫の例



(参考) 土工における土の流れの概念図



1-6 設計書様式

・設計書表紙（甲）

担当主務課										事業実施事務所									
課長		技術補佐 (総括)		班長		担当		所長		(技術担当) 副所長		(総括担当) 次長		班長		副班長		設計者	
工 事 設 計 書 (仕 様 書)																			
事業年度	平成 年度					工事番号													
工事名	工 事															設計書			
路線名 河川名 港湾名																			
施工地名																			
工期	平成 年 月 日					～	平成 年 月 日					まで					日間		
工 事 概 要																			
別紙のとおり																			

・設計書表紙（乙）

工 事 費	
設計額	円
工事価格	円
消費税相当額	円
起工理由もしくは変更理由	
施工方法その他	

・事業費総括表

事業費総括表(様式例)						
費目	金額					摘要
事業費						
工事費						
木工事費						
付帯工事費						
測量及び試験費						
用地費及び補償費						
機械器具費						
宮繕費						
事務費						

・特記仕様書（施工条件明示書） 【注：最新版を使用すること。】

— 特記仕様書 —

施工条件明示書

工事番号	項目	工事名	条件	内容	事務所名	備考	
1	共通仕様書の適用	本工事は、宮城県土木部制定「共通仕様書」を適用するほか、本特記仕様書により施工するものとする。 仕様書の記載内容の優先は、「特記仕様書」「共通特記仕様書」「共通仕様書」の順とする。					
2	主任技術者及び監理技術者(以下、配置技術者という。)の配置	(1) 現場施工に着手する日の指定					
			○ある	平成 年 月 日 又は 契約日から○日以内			
			○ない	請負者は、現場施工に着手する日の指定がない限り、原則として、契約書に定める工期の初日から30日以内に現場施工に着手しなければならない。(共通仕様書第1編共通編第1章総則1-1-8)			
				上記現場施工に着手する日の前日までの期間において、工事準備等を含め工事現場が不稼働であることが明確な場合は、配置技術者の工事現場への専任は要しない。「建設工事等の入札・契約制度の運用について」(平成21年8月31日付け出契第410号)			
3	工期関係	(1) 関連工事による施工時期の調整					
			◎ある	○ない			
			◎ある	○ない			
			◎ある	○ない			
			◎ある	○ない			
4	公害対策関係	(1) 施工方法、機械施設、作業時間等の制限					
			◎ある	○ない			
5	安全対策関係	(1) 交通安全施設等の指定					
			◎ある	○ない			
			◎ある	○ない			
6	排水関係	(1) 濁水、湧水処理のための特別な対策の必要性					
			◎ある	○ない			
7	建設副産物対策関係	(1) 共通事項					
				下記の処理・処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、下記にない場合は、監督職員と協議すること。また、処理・処分は先立ち処分場等の受入れの可否を確認すること。			
			◎ある	○ない	土量、土質、土工期等に変更が生じた都度、当該システムのデータ更新を行うこと。 (搬出量で1,000m ³ 以上、搬入量で500m ³ 以上)		
		処理・処分		処理・処分する場所	処理・処分方法	距離	制限時間
			◎ある	○ない		km	時 分 ~ 分
			◎ある	○ない		km	時 分 ~ 分
		(3) 建設発生土以外の建設副産物		処理・処分			
				コンクリート塊			
					工事現場内及び工事現場間で再利用する場合は、施工管理及び契約方法等について、施工計画行合せ時に監督職員と協議すること。		
				アスファルト塊		km	時 分 ~ 分
				建設発生木材		km	時 分 ~ 分
				建設汚泥		km	時 分 ~ 分
				その他		km	時 分 ~ 分
		(4) 再生材の利用	◎ある	○ない	種類・数量		
8	工事現場のイメージアップ		◎ある	○ない	内容		
					イメージアップの具体的な実施内容、実施期間については、施工計画書に明記し、監督職員と協議すること。		
9	品質証明	(1) 品質証明書および施工プロセス品質確認チェックリストの対象					
			○ある	◎ない			
			◎ある	◎ない	土木工事共通特記仕様書第3編1-1-9および品質証明実施要領によること。		
			◎ある	◎ない			
10	標準的な設計図書による発注方式		◎ある	◎ない	土木工事共通特記仕様書第3編1-1-14によること。		
11	資材関係	(1) 生コンクリート					
				生コンクリートの使用に当たっては、「宮城県生コンクリート品質管理監査会議」が交付する「品質管理監査合格証」を有する工場の製品、又は同等以上の品質管理を行っていることが認められる工場の製品を使用すること。			
			必須	1. 環集排水管、養生基礎材等、及び視線誘導標は、宮城県グリーン製品を用いること。			
			◎ある	○ない	2. 盛土材、埋め戻し材		
			○ある	◎ない	3. その他()		
			○ある	◎ない	4. その他()		
		(3) 現場吹付法砕石			吹付モルタルにおける圧縮強度の規格値は、18N/mm ² 以上とする。		
12	その他	(1) 舗装の下請制限について					
			○ある	◎ない	土木工事共通特記仕様書第1編1-1-3によること。		
			○ある	◎ない	本工事は「ダンプ土砂運搬等下請を行う工事における工事費内訳調査」の対象工事であり、請負者は、調査票等に必要事項を正確に記入し発注者に提出する他、ダンプ土砂運搬等下請負契約に関する関係書類を提出すること。 請負者が本工事の一部について下請契約を締結する場合には、請負者は、当該工事の受注者(当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む)も同様の義務を負う旨を告知すること。		
			○ある	◎ない	本工事は、工事着手前等に当該工事の発注者、施工者、詳細設計等を担当した設計者が参加して、設計図書と現場の整合性の確認及び設計意図の伝達等を行う「三者会議」を設ける対象工事である。 土木工事共通特記仕様書第3編1-1-5によること。		
			○ある	◎ない	本仕様書によるものほか工事施工に關して必要な資料として工事契約後下記の資料を貸与する。 貸与資料()		
			◎ある	○ない	本工事の工事写真の作成は、原則として、デジタル写真管理情報基準(案)に基づき電子とすること。ただし、予定価格が8,000万円未満の場合は、監督員との協議により、従来の紙による作成も認めることとする。		
			◎ある	○ない	請負者は、工事請負代金額が500万円以上の工事について、工事実績情報サービス(CORINS)に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報として「工事カルテ」を作成し登録申請を行うこと。		

第1章 土木工事設計図書等作成要領

・特記仕様書（特記事項）

特記事項

1	追加事項1			
	(1) 追加			
	(2) 追加			
	(3) 追加			
	(4) 追加			
	(5) 追加			
2	追加事項2			
	(1) 追加			
	(2) 追加			
	(3) 追加			
	(4) 追加			
	(5) 追加			
3	追加事項3			
	(1) 追加			
	(2) 追加			
	(3) 追加			
	(4) 追加			
	(5) 追加			
4	追加事項4			
	(1) 追加			
	(2) 追加			
	(3) 追加			
	(4) 追加			
	(5) 追加			
5	追加事項5			
	(1) 追加			
	(2) 追加			
	(3) 追加			
	(4) 追加			
	(5) 追加			
6	追加事項6			
	(1) 追加			
	(2) 追加			
	(3) 追加			
	(4) 追加			
	(5) 追加			
7	追加事項7			
	(1) 追加			
	(2) 追加			
	(3) 追加			
	(4) 追加			
	(5) 追加			
8	追加事項8			
	(1) 追加			
	(2) 追加			
	(3) 追加			
	(4) 追加			
	(5) 追加			
9	追加事項9			
	(1) 追加			
	(2) 追加			
	(3) 追加			
	(4) 追加			
	(5) 追加			

参 考 資 料

注) 本資料は、工事請負契約を拘束するものではない。

工事番号 平成〇〇年度 ■■■■—〇〇号

工事名 ・ ・ ・ ・ ・ 工事

平成〇〇年〇〇月

宮城県〇〇〇事務所

1-7 積算例

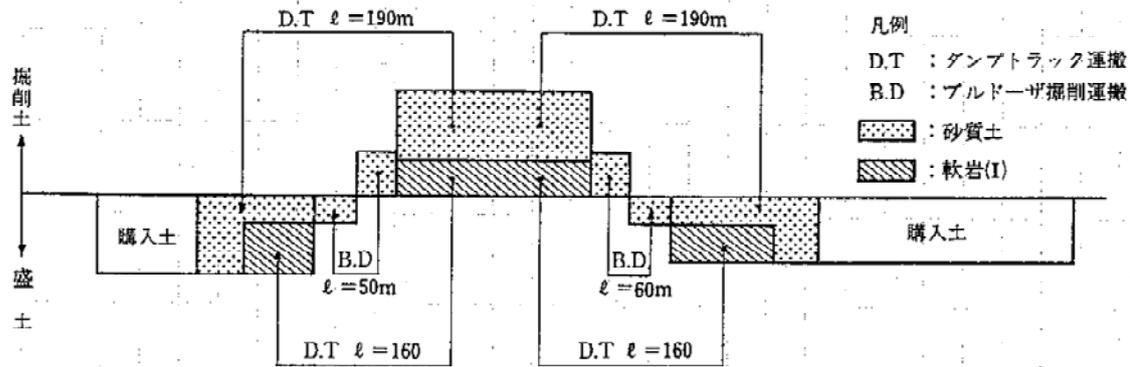
1. 工事概要

この工事は、〇道〇〇線の道路改築事業の一環として施工する〇〇バイパスの改良工事である。工事区間は、〇〇町〇〇地先の施工延長850m、施工幅員は9.5mである。主要工事内容は土工事で、掘削土4,870m³(砂質土3,720m³、軟岩(I)1,150m³)は全量盛土(12,600m³)に流用し、不足土は購入土(7,820m³)により盛土する。掘削部にはコンクリートブロック積みもたれ擁壁463m³、プレキャスト法枠467m³(後年度実施)を施工する。

設計図は、図1-1~に示す。

2. 土量配分計画

図1-1 土量配分図



このバイパス工事では全体の盛土量が不足しているため、この工事区間の掘削土及び構造物の作業残土は、すべて盛土に流用し、不足土量は購入土により盛土する。

土量配分計画上の留意事項は、次のとおりである。

- 1) 土量の変化率を考慮する。変化率は施工実績から推定するのが望ましいが、工事量が少ない場合などは、「積算基準、土量変化率」を用いる。

この工事は施工実績から砂質土のC(締固め後の土量/地山の土量)を0.9、軟岩(I)のCを1.15とする。

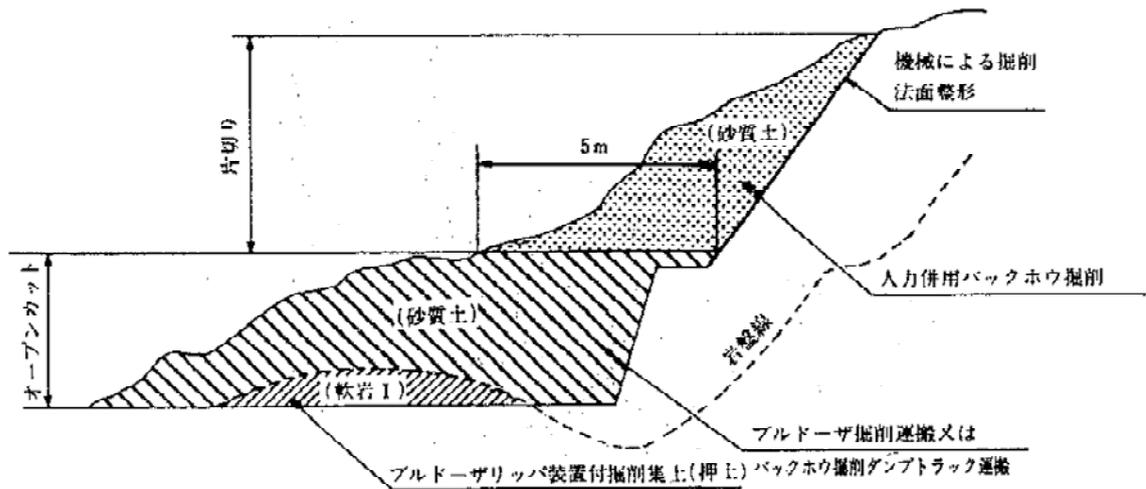
- 2) 構造物からの作業残土は、盛土の土量配分計画に含める。ただし、床掘り及び埋戻しは、構造物ごとに積算する。
- 3) 機種を選定、機種ごとの運搬距離及び土量は、土質、地形、作業能力、経済性などを考慮し決定する。この工事では、掘削部からブルドーザ及びダンプトラックにより盛土部へ運搬する。
- 4) 軟岩(I)はすべて路床に利用する。

3. 積算のポイント

(1) 掘削工

- 1) 掘削工は土質、地形等を勘案して施工方法及び機種を決定する。砂質土は施工幅が5m以上をオープンカットし、5m未満は片切りとする。軟岩(I)は施工幅が5m以上あり、リッパ装置付ブルドーザで掘削集土する。

掘削工法区分図



2) 掘削法面のこう配は土質、地質、地形、地下水の影響、法面保護工のこう配等を勘案して決定する。この工事では工作物と同じこう配とし、法面整形を行う。

なお法面整形は、機械による法面整形とし、法面保護工を実施することから人力による二次整形もする。

(2) 盛 土

- 1) 土量は路体、路床に分類し、施工方法別に計算する。数量は締固め後の土量とする。
- 2) 敷ならし、締固め機種はブルドーザ又はタイヤローラを標準とするが、施工幅、土工量等を勘案し、小型機械の使用も考える。
- 3) 購入土は店頭渡し「ほぐした土量」とする。
- 4) 盛土法面は、引続き施工する舗装工事で筋芝工を行うので、この工事には、法面整形を計上しない。

(3) 構 造 物

- 1) 床掘りの積算は、「積算基準 機械土工」による。
- 2) 埋戻しの積算は、「積算基準 機械土工」による。
- 3) コンクリートは生コンを使用し、「積算基準 コンクリート工」により積算する。コンクリートブロックの基礎、天端コンクリートは小型構造物を適用する。

(4) 共通仮設費

- 1) 共通仮設費は「土木請負工事の共通仮設費算定基準」により積算する。

図 1-2 道路工事平面図

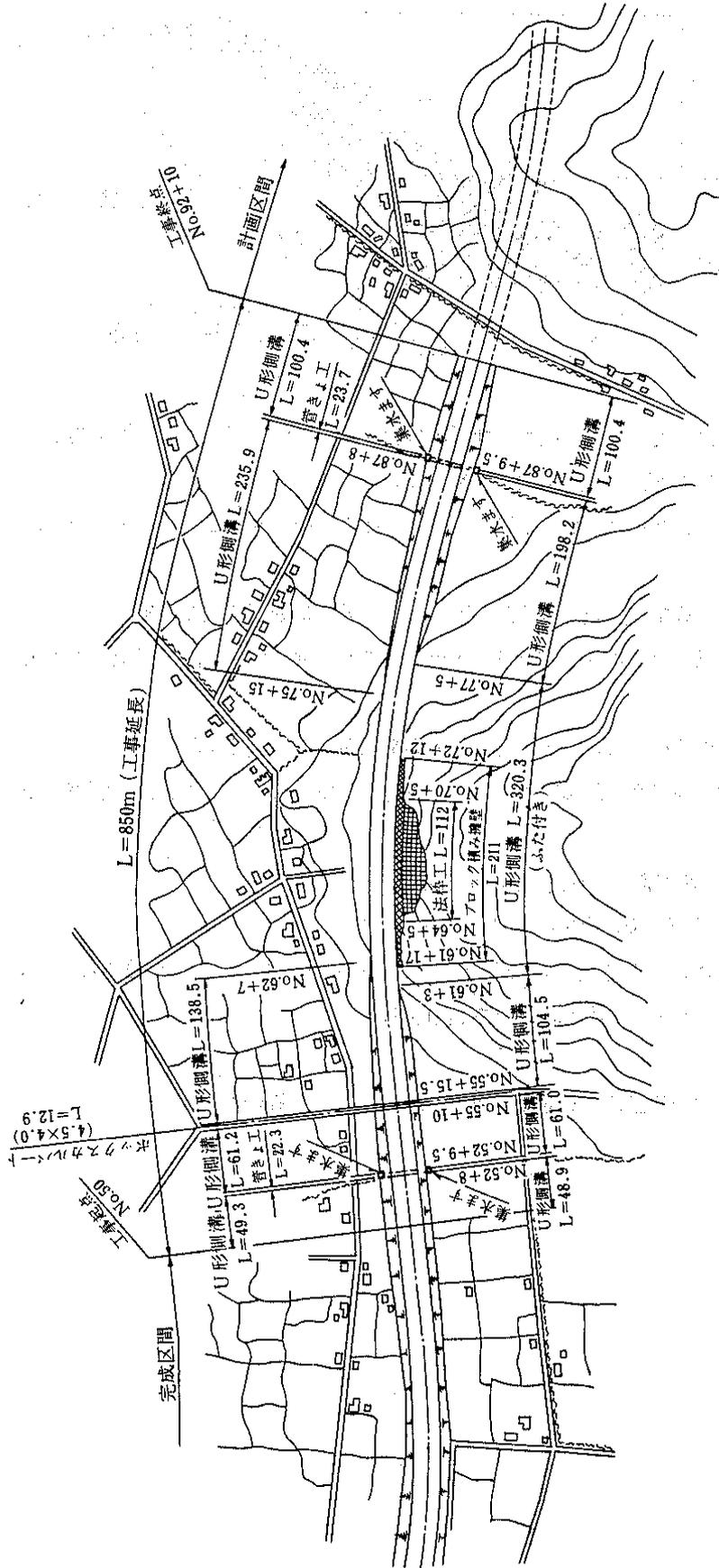


圖 1-3 標準断面図

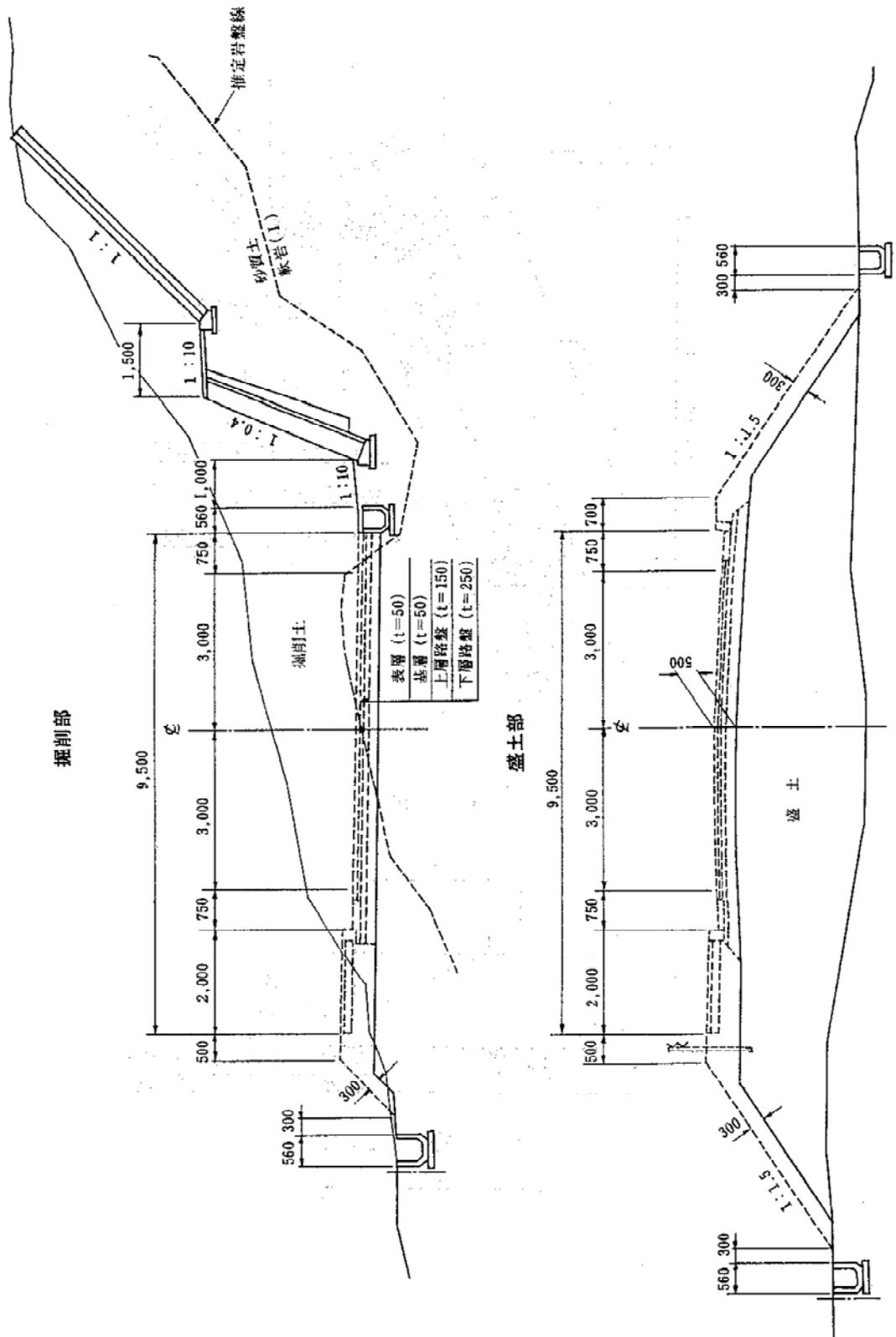
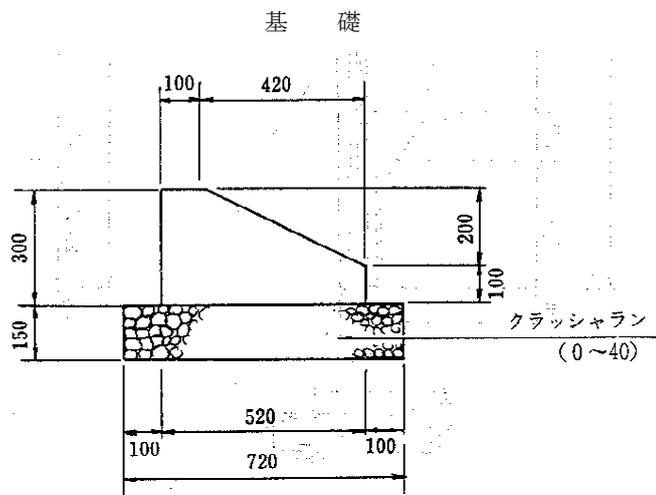
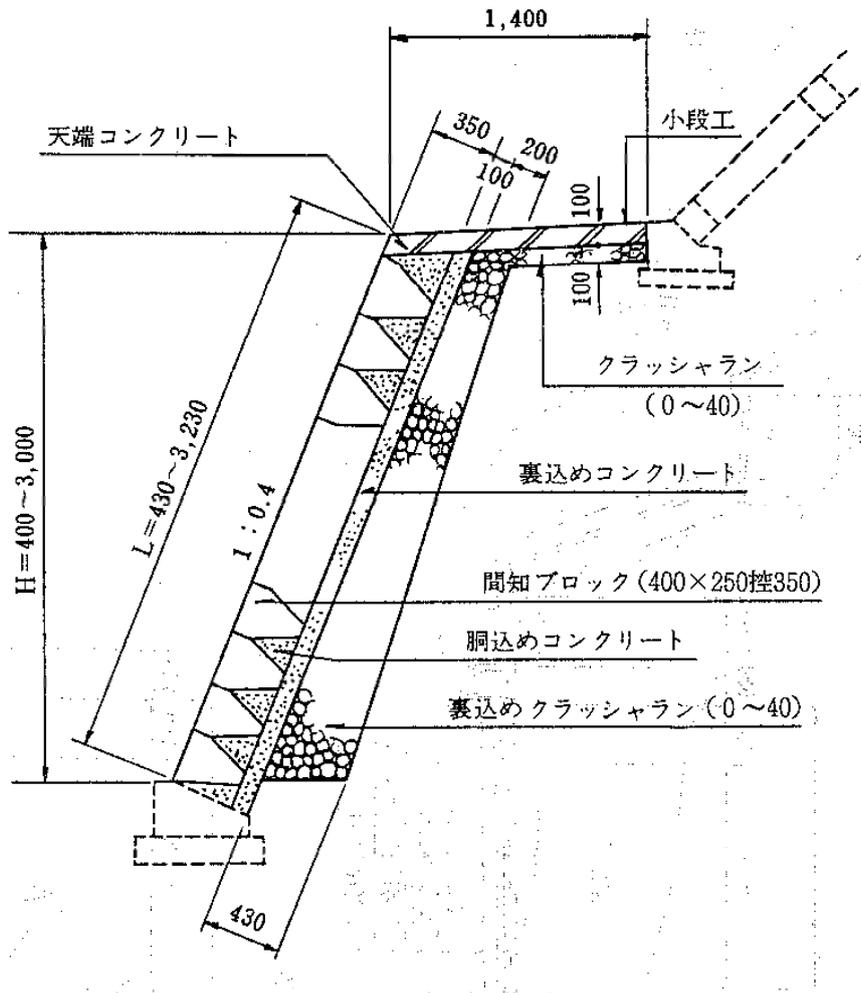


図1-4 ブロック積み詳細図
 ブロック積み工断面図



土工集計表										
掘削工					盛土			残土		
土質	工法		掘削土量	変化率 C	締固後土量	盛土量	工法	盛土箇所	変化率 1/c	地山 換算土量
砂質土	片切	人力併用BH掘削, DT運搬	1,060	0.90	954	1,200	BD敷均し, TR締固	路体	1.11	-274
	オープンカット	BH掘削, DT運搬	2,270	0.90	2,043	1,796	BD敷均し, TR締固	路床	1.11	274
		BD掘削押土 L=25m	80	0.90	72	70	3tBD敷均し, VR締固	路床	1.11	2
		BD掘削押土 L=50m	310	0.90	279	280	BD敷均し, TR締固	路床	1.11	-2
	(作業土工残土)		117	0.90	105	105	BD敷均し, TR締固	路体	1.11	0
小計			3,720			3,451				0
軟岩1	RD掘削, BH積込, DT運搬		1,150	1.15	1,322	1,320	BD敷均し, TR締固	路床	0.87	1
小計			1,150			1,320				1
購入土						路体5,200-(1,200+105)				
						3,895	BD敷均し, TR締固	路体		
						路床7,450-(1,796+70+280)-1,320				
小計						3,984	BD敷均し, TR締固	路床		
小計						7,879				
合計			4,870			12,650				

作業土工集計表										
床掘等					埋戻し			残土		
土質	工法		掘削土量	変化率 C	締固後土量	埋戻土量	工法		変化率 1/c	地山 換算土量
砂質土	ブロック積工	BH小規模床掘	135	0.90	121	15	小規模土工		1.11	117
	法枠工	BH小規模床掘					小規模土工			
	カルパート工	BH掘削					埋戻しC			
		人力床掘								
	側溝工	BH掘削					埋戻しD			
		BH小規模床掘								
	管渠工	BH小規模床掘					小規模土工			
集水樹工	BH小規模床掘					小規模土工				
計			135			15				117

作業土工残土は、盛土に転用するため盛土位置までの運搬費を計上する。

4. 数量集計表様式

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分			合計	A地区	B地区	内訳数量表別紙
掘削工	土砂掘削		m3	m3	合計			3720.0	3720.0	0.0	0.0
					片切部	砂・砂質土	人力併用機械掘削	1060.0	1060.0		
					オープンカット部	砂・砂質土	BD掘削押土50m	80.0	80.0		
						砂・砂質土	BD掘削押土60m	310.0	310.0		
						砂・砂質土	BH掘削	2270.0	2270.0		
	軟岩掘削		m3	m3	合計			1150.0	1150.0	0.0	0.0
オープンカット部	軟岩I			1150.0	1150.0						
路体盛土工	流用土路体		m3	m3	合計			2520.0	2520.0	0.0	0.0
					4.0m≦B	砂・砂質土	BD+TR	1200.0	1200.0		
						粘性土	BD+BD	1320.0	1320.0		
					購入土路体		m3	m3	合計		
	4.0m≦B	砂・砂質土	BD+TR	4000.0					4000.0		
路床盛土工	流用土路床		m3	m3	合計			2250.0	1866.0	279.0	105.0
					1.0m≦B<2.5m	砂・砂質土	BD(3)+VR	70.0	70.0		
					4.0m≦B	砂・砂質土	BD+TR	2180.0	1796.0	279.0	105.0
						砂・砂質土	BD+TR	3800.0	3800.0		
	購入土路床		m3	m3	合計			3800.0	3800.0	0.0	0.0
4.0m≦B	砂・砂質土	BD+TR	3800.0	3800.0							
法面整形工	法面整形(掘削部)		m2	m2	合計			460.0	460.0	0.0	0.0
					一次整形(機械)	砂質土、粘性土		460.0	460.0		
					合計			0.0	0.0	0.0	0.0
作業残土処理工	(作業残土処理)		m3	m3	合計			0.0	0.0	0.0	0.0
					合計			0.0			

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分			合計	A地区	B地区	内訳数量表別紙	
作業土工	床掘り		m3	m3	合計			135.0	135.0	0.0	0.0	
					<施行基面以上>							
					オープンカット部	砂・砂質土		100.0	100.0			
					<施行基面以上>							
					オープン掘削部	H≦5m	砂・砂質土	35.0	35.0			
					合計			151.0	151.0	0.0	0.0	
	基面整正			0.0	151.0							
	埋戻し			0.0								
	埋戻し			m3	m3	合計			21.0	21.0	0.0	0.0
						人力	土砂		6.0	6.0		
埋戻し種別C						土砂		6.0	6.0			
埋戻し種別D						土砂		9.0	9.0			
コンクリートブロック工	コンクリートブロック基礎	【底幅、高さ】 W=52cm,H=30cm	m	m	合計			211.0	211.0	0.0	0.0	
					合計			211.0	211.0			
	コンクリートブロック積み	【ブロック規格】	m2	m2	合計			463.0	463.0	0.0	0.0	

1-18 コンクリートブロック基礎 数量表

底幅・高さ:W=52cm,H=30cm

211.0 m当り

項目	規格	数量区分			単位	数量		備考
						全体	1m当り	
基礎砕石	【砕石種類、数厚】再生砕石(0~40), t=20cm				m2	151.9	0.72	
コンクリート	【コンクリート規格】18-8-40				m3	42.2	0.20	
型枠					m2	179.3	0.85	

1-19 コンクリートブロック積み 数量表

ブロック規格:300*450*350

463.0 m2当り

項目	規格	数量区分			単位	数量		備考
						全体	10m2当り	
ブロック積み					m2	463.0	10.0	
コンクリートブロック	【ブロック規格、質量】300*450*350				個	4630.0	100.0	
裏込砕石	【裏込材規格】再生砕石(RC-40)				m3	208.0	4.5	
裏込コンクリート	【コンクリート規格】18-8-40				m3	46.3	1.0	
胴込コンクリート	【コンクリート規格】18-8-40				m3	88.0	1.9	
目地材	【種類、厚さ】瀝青系,t=10mm				m2	138.0	2.98	
足場		枠組足場	鉄筋構造物	H<4m	掛m2	200	4.32	H:平均設置高

1-21 天端コンクリート 数量表

タイプ:TYPE1

211.0 m当り

項目	規格	数量区分			単位	数量		備考
						全体	1m当り	
コンクリート	【コンクリート規格】18-8-40				m3	29.54	0.14	
型枠					m2	23.21	0.11	
目地材	【種類、厚さ】瀝青系,t=10mm				m2	2.95	0.014	

設計内訳書（本01）

工事名		道路改良積算例				事業区分	道路新設・改良 道路改良		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
道路改良			式	1		52,930,642			
道路土工			式	1		29,845,002			
掘削工			式	1		3,534,701			
土砂掘削			m3	3,790	683.9	2,591,981			単 1号
軟岩掘削			m3	1,200	785.6	942,720			単 2号
路体盛土工			式	1		12,449,000			
汎用土路体			m3	1,200	167.5	201,000			単 3号
購入土路体			m3	4,000	3,062	12,248,000			単 4号
路床盛土工			式	1		13,020,421			
汎用土路床			m3	3,570	295.3	1,054,221			単 5号
購入土路床			m3	3,800	3,149	11,966,200			単 6号

宮城県

設計内訳書（本01）

工事名		道路改良積算例				事業区分	道路新設・改良 道路改良		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	摘要
法面整形工			式	1		840,880			
法面整形(掘削部)		土質:土砂	m2	460	1,828	840,880			単 7号
石・ブツツ積(張)工			式	1		23,085,640			
作業土工			式	1		183,158			
床掘り			m3	135	914.8	123,498			単 8号
埋戻し			m3	20	2,983	59,660			単 9号
コンクリートブロック工			式	1		22,902,482			
コンクリートブロック基礎		底幅:0.52cm,高さ:0.3cm 基礎砕石:再生コンクリート0~40,コンクリート:18-8-40	m	211	11,120	2,346,320			単 10号
コンクリートブロック積み		ブロック規格:30*45*35 裏込材:再生コンクリート0~40,顔込・裏込 コンクリート:18-8-40	m2	463	42,770	19,802,510			単 11号
天端コンクリート		幅:1,400cm コンクリート:18-8-40	m	210.4	3,682	763,662			単 12号
直積工事費			式	1		52,930,642			

宮城県

設計内訳書（本01）

工事名		道路改良種算例				事業区分	道路新設・改築 道路改良		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量増減	金額増減	備考
共通仮設			式	1		6,314,000			
共通仮設費（甲計上）			式	1		6,314,000			
純工事費			式	1		59,244,642			
現場管理費			式	1		10,628,000			
工事原価			式	1		69,872,642			
一般管理費等			式	1		7,979,358			
工事価格			式	1		77,852,000			
消費税額及び地方消費税額			式	1		3,892,600			
工事費計			式	1		81,744,600			

宮城県

1 次 単 価 表

単価使用年月 1999.11
 抄算適用年月 1999.11
 労務調整係数 1.000-00000 0.0 0

単 1 号	土砂掘削	条件	単位	m3	割戻数量	3,790	単価	683.9
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
	片切掘削(人力併用機械掘削)土砂	無・低騒音,有(排出対策型)						
	ポンプトラップ運搬(10t)	排出対策型(バケット) 0.6m3,土砂, 無,0.3km以下,良好	m3	1,100	966.2	1,062,820		単 13号
	バケット掘削積込	0.6m3,地山の掘削積込,粘質土、砂・ 砂質土、粘性土、腐害なし、無・低騒音 、有(排出対策型)	m3	2,300	286.1	314,710		単 14号
	ポンプトラップ運搬(10t)	排出対策型(バケット) 0.6m3,土砂, 無,0.3km以下,良好	m3	2,300	286.1	658,030		単 15号
	バケット掘削押土	21t,50m,砂・砂質土,地山(普通),標 準,有(排出対策型)	m3	80	282.6	22,624		単 16号
	バケット掘削押土	21t,60m,砂・砂質土,地山(普通),標 準,有(排出対策型)	m3	310	318.6	98,766		単 17号
	計					2,592,340		
	単価					683.9		円/m3

宮城県

1 次 単 価 表

単価使用年月 1999.11
 抄算適用年月 1999.11
 労務調整係数 1.000-00000 0.0 0

単 2 号	軟岩掘削	条件	単位	m3	割戻数量	1,200	単価	785.6
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
	バケット掘削押土	有(排出対策型)						
	バケット掘削積込	0.6m3,スズな状態の積込,粘質土、砂・ 砂質土、粘性土、無・低騒音,有(排出 対策型)	m3	1,200	253	303,600		単 18号
	ポンプトラップ運搬(10t)	排出対策型(バケット) 0.6m3,軟岩, 無,0.3km以下,良好	m3	1,200	183.5	220,200		単 19号
	計					418,920		単 20号
	単価					942,720		
						785.6		円/m3

宮城県

1 次 単 価 表

単価使用年月	1999.11
歩掛適用年月	1999.11
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 5号	汎用土路床	単位	m3	割戻数量	金額	単価	295.3
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要
	7'斜'+'+'敷均し	路床, 標準, 15t, 無, 有(排出ガス対策型)	m3	2,200	181	398,200	単 25号
	7'作'+'+'締固め(S-20t)	路床, 標準	m3	2,200	73.62	161,964	単 26号
	7'斜'+'+'敷均し	狭路な箇所, 無, 有(排出ガス対策型)	m3	70	342.1	23,947	単 27号
	振動+'+'締固め	2.5~2.8t, 路床, 路肩, 歩道等, 標準	m3	70	421.1	29,477	単 28号
	7'斜'+'+'敷均し締固め	路床, 標準, 15t, 無, 有(排出ガス対策型)	m3	1,300	339	440,700	単 29号
	計					1,054,288	
	単価					295.3	円/m3

宮城県

1 次 単 価 表

単価使用年月	1999.11
歩掛適用年月	1999.11
労務調整係数	1.000-00000 0.0 0

単 6号	購入土路床	単位	m3	割戻数量	金額	単価	3,149
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要
	購入土等	購入土	m3	13.3	1,500	19,950	単 23号
	7'ソ'+'+'トラップ濾層(10t)	排出ガス対策型+'+'7'斜'+'+' 0.6m3, 土砂, 無, 5.5km以下, 良好	m3	11.1	810.6	8,997	単 24号
	7'斜'+'+'敷均し	路床, 標準, 15t, 無, 有(排出ガス対策型)	m3	10	181	1,810	単 25号
	7'作'+'+'締固め(S-20t)	路床, 標準	m3	10	73.62	736	単 26号
	計					31,493	
	単価					3,149	円/m3

宮城県

1 次 単 価 表

単価使用年月 1999.11
 改修適用年月 1999.11
 労務調整係数 1.000-00000 0.0 0

単 7号	法面整形(掘削部)	土質:土砂	単位	m2	割戻数量	460	単価	1.828
名称・規格		条件		単位	数量	単価	金額	摘要
	機械による切土整形(バツバツ)	砂質土、粘性土、持込・低騒音持込、有(排出バツ対策型)		m2	460	782.6	359,996	単 30号
	人力による切土整形	二次整形、砂質土・粘性土		m2	460	1,046	481,160	単 31号
計							841,156	
単価							1.828	円/m2

1 次 単 価 表

単価使用年月 1999.11
 改修適用年月 1999.11
 労務調整係数 1.000-00000 0.0 0

単 8号	床掘り		単位	m3	割戻数量	135	単価	914.8
名称・規格		条件		単位	数量	単価	金額	摘要
	バツバツ掘削機	0.6m3.増山の掘削機、バツバツ、砂・砂質土、粘性土、障害なし、無・低騒音、有(排出バツ対策型)		m3	100	189.3	18,930	単 15号
	バツバツ床掘	0.6m3,バツバツ、砂・砂質土、粘性土、有、自立式、障害なし、無・低騒音、有(排出バツ対策型)		m3	35	313.8	10,983	単 32号
	基面整正(床付面の整正作業)			m2	151	364	54,964	単 33号
	ダンプトラック運搬(10t)	排出バツ対策型バツバツ 0.6m3.土砂、無.0.3km以下,良好		m3	135	286.1	38,623	単 14号
計							123,500	
単価							914.8	円/m3

宮城県

1 次 単 価 表

						<small>単価使用年月</small> 1999.11 <small>歩掛適用年月</small> 1999.11 <small>労務調整係数</small> 1.000-00000 0.0 0	
単	9号 埋戻し	単位	m ³	割戻数量	20	単価	2,960
名称・規格		条件	数量	単価	金額	摘要	
	埋戻し D(φ=1m未満)	砂・砂質土、粘性土、4質土、標準、無・低騒音、有(排出ガス対策型)				単	34号
	人力盛土(埋戻し)	粘性土、砂・砂質土、レキ質土	m ³ 10	2,508	25,080	単	35号
	計						
	単価				59,660		
					2,963	円/m ³	

1 次 単 価 表

						<small>単価使用年月</small> 1999.11 <small>歩掛適用年月</small> 1999.11 <small>労務調整係数</small> 1.000-00000 0.0 0	
単	10号 コンクリートブロック基礎	底幅:0.62cm,高さ:0.3cm	m	割戻数量	1	単価	11,120
名称・規格		条件	数量	単価	金額	摘要	
	基礎砕石工	0.2m,再生フレッシュラン 40~0,無・低騒音,有(排出ガス対策型)	m ² 0.72	1,241	893	単	36号
	ブロック人力打設	18-8-40(普通),小型構造物,一般養生,無,無,標準	m ³ 0.2	19,590	3,918	単	37号
	型枠工(小型構造物 I・II)	小型構造物(I)	m ² 0.85	7,424	6,210	単	38号
	計						
	単価				11,121		
					11,120	円/m	

宮城県

1 次 単 価 表

						<small>単価使用年月</small> 1999.11 <small>歩掛適用年月</small> 1999.11 <small>労務調整係数</small> 1.000-00000 0.0 0		
単 11 号	コンクリートスラブ積み	スラブ規格:3045*35	単位	m ²	割戻数量	10	単価	42,770
名称・規格		条件		単位	数量	単価	金額	摘要
	裏込材工(クワッパ)		間知7'クワッパ種,再生クワッシャラン R C-40	m ³	4.5	5,636	25,362	単 39 号
	スラブ積工[市場単価]		滑面,100m ² 以上(標準),無,無,破積み,有(剥込+裏込),2.9m ³ /m ² ,18-8-40(普通)	m ²	10	38,570	385,700	単 40 号
	目地工(加工・摺付)		遷青繊維質目地板,10mm	m ²	2.98	1,740	5,185	単 41 号
	枠組足場工		トックレン無し,無筋構造物,II<4m,無	積m ²	4.32	2,660	11,491	単 42 号
	計						427,738	
	単価						42,770	円/m ²

宮城県

1 次 単 価 表

						<small>単価使用年月</small> 1999.11 <small>歩掛適用年月</small> 1999.11 <small>労務調整係数</small> 1.000-00000 0.0 0		
単 12 号	天棚コンクリート	幅:1,400cm	単位	m	割戻数量	1	単価	3,582
名称・規格		条件		単位	数量	単価	金額	摘要
	コンクリート人力打設		18-8-40(普通),小型構造物,一般養生,無,無,標準	m ³	0.14	19,590	2,742	単 37 号
	型枠工(小型構造物 I・II)		小型構造物(1)	m ²	0.11	7,424	816	単 38 号
	目地工(加工・摺付)		遷青繊維質目地板,10mm	m ²	0.014	1,740	24	単 41 号
	計						3,582	
	単価						3,582	円/m

宮城県